

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜のつぐみ療育園 四郎丸園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 10日		～ 2026年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 1月 10日		～ 2026年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他の事業所よりも児童発達を行うスペースが広く、机上課題だけではなく運動の療育を取り入れた支援も行うことができる所。	スペースは確保することができているが、全力で体を動かすには少し狭いこともあるため、適度な運動遊びを取り入れた支援を行っている。	よりスペースを確保するために活動するにあたって必要ない備品に関しては部屋から撤去を行う。反対に安全面に配慮するための備品の配置は必要である。
2	部屋数が多いため、活動によって場所をしっかりと分けることができているため、気持ちや活動の切り替えがスムーズにできることが多い。	机上課題等の集中する時は個別の部屋で活動を行い、自由活動の時間にはおもちゃ部屋で行う使い分けを行うことができている	自由活動時に活動部屋でのルールの設定及び子供たちへのルールの伝達を再度行い、気持ちや活動の切り替えをよりよくできるようにする。
3	児発と放デイの活動時間がかぶることがあるため、放デイとの交流する機会がある。	机上課題と自由時間でしっかり時間を分けているため、療育の時間は学ぶ時間としてとることができており、自由遊びの時間に交流することができている。	自由活動だけでなく、療育の一環として放デイに混ざって活動する機会を作り、児発からの持ち上げの際にスムーズに移行できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達と放デイが同じ時間帯に行っているため、職員が足りないと感じる時があることが弱みであると思う。	放デイの児童の学校へのお迎え時間と保育園や幼稚園にお迎えに行く時間がかぶることが要因だと感じる。	児発と放デイがお迎え時間がかぶることが多い曜日に職員の配置数を増やしたり、送迎の組み方を工夫する必要があると思う。
2	職員が新しい方が多いため、知識や技術が足りない面があるため、知識や技術の向上ができる取り組みが必要であると思う。	職員の入れ替わりが多く、新しい職員が多いため事業所内のルールがあやふやな所があったり、わからないことがあっても周りに聞くことが難しいことがある。	事業所内での研修を取り組むことで知識向上を図ったり、技術面に関しては、経験の長い職員からのアドバイスや支援方法の伝授する機会を設ける。
3	現在職員が固定で入ることが多いため、児発と放デイどちらも行っている職員の負担になってしまっている。	専門職の方がいるため、専門職の観点から支援をお願いすることが多くあり、その流れのまま固定化につながってしまった。児発の支援に入ったことない職員は知識や技術の面で他の職員と差ができてしまっている。	児発の支援の引継ぎを他の職員へ行い全員が児童発達に入る体制にする。そのことで職員の負担も減りつつ職員全員の支援の技術の向上へもつながると思う。